

○朝日新聞

鹿島高校生の市議会との意見交換の内容を教えてください。

○県職員

環境分野、福祉分野の課題を語り合いました。

○NHK

鹿島高校のキャリアラボから実を結んだ具体例を紹介してください。

○教育長

令和6年2月に開設しました。金曜日には先輩がそこにいて、高校生が気軽に相談できる場所というところでは。将来的に、1人に1人の先輩が、キャリアアドバイザーになれる体制になればと思っています。

○読売新聞

教員採用数が増えているグラフは、佐賀県内の数字ですか。

○教育長

そうです。全国的にも同じような状況です。

○読売新聞

具体的な数字がありますか。

○県職員

直近5年は、小学校で200人、中学校では100人近く採用しています。

○読売新聞

悩み相談ステーションの開設は、今年度初めての県教育委員会としての取組ですか。

○教育長

そうです。これまでは、教育事務所や学校、教育委員会が、メールや電話で相談を受けていました。もっと気軽に相談できるよう時間を気にせず相談できる体制を整えました。

○読売新聞

相談できる人の年齢制限はありますか。

○教育長

経験の浅い人を中心にと考えていますが、特に制限はかけていません。

○西日本新聞

教員採用試験の倍率は、去年より微増しました。これに対する受け止めをお願いします。

○教育長

多くの方に受けてほしい思いで制度を変更してきました。例えば、講師経験のある人の免除の範囲を広げたり、試験の時期を早めたり、教育の魅力をアピールしたり、学生への働きかけを行いました。その成果があったと思います。今後もしっかり取り組んでいきます。

○西日本新聞

3回目の秋採用でした。功を奏したとの受け止めですか。

○教育長

秋採用の応募が多くなりました。幅広く人材確保の機会を持ちたいと思います。

○西日本新聞

先日の市長会要望の際、教員業務支援員について、国に補助割合の引き上げを要望するとの発言がありました。近々、文科省に行く予定がありますか。

○教育長

いいえ。政策提案として、既に要望済みです。

○西日本新聞

ろう学校、盲学校が100年周年を迎えました。これは珍しいのですか。また、時代に合わせた新しい取り組みがあれば教えてください。

○教育長

設立当初は、公立ではありませんでした。場所も変わりながら、児童生徒数も多かった時期もありましたが、現在は少子化の影響で少なくなっています。

生徒の発表や展示作品は、感覚が豊かになるような教育がされていて、センスのいい作品ばかりでした。子どもたちが豊かに育つような教育がなされていると感じました。

○佐賀新聞

教員の働き方改革を進める取組を教えてください。

○教育長

まず、教員でしかできない業務の精選、割り出しをしました。在校時間を把握し勤務実態をはっきりさせ、業務の割り振りを考えたり、仕事のデジタル化を進めています。今年度は、サービス支援システムを導入し、手作業をなくすデジタル化を推進しています。

学校現場の取り組みについても、いい事例がありますので、紹介しながら広げていきたいと思っています。

○佐賀新聞

どのような学校現場の取り組みでしょうか。

○教育長

例えば、校事時間は、曜日を決めて早く終わらせる。授業ではなく、掃除の時間を早く終わらせて下校を早めるなどです。

○佐賀新聞

県立大学は、全ての学校に推薦枠を設ける方針が示されました。推薦枠を広げることに對する受け止めをお願いします。

○教育長

推薦枠をどうするかは、これからのことになります。受験生の希望がかなえられるよう考えます。地元でできる大学に、県内の高校生が進学しやすい形をとりたいですが、具体的にはこれからでしょう。

○STS

ヘルスキーパーは、民間企業に雇用されている事例がありますか。

○教育長

県内ではありません。広げていきたいと思っています。

○STS

教職員互助会の雇用形態を教えてください。

○県職員

非常勤職員です。

○STS

教職員のお酒が関係する不祥事がありました。受け止めと再発防止に向けた取組を教えてください。

○教育長

続けて不祥事が発生したことを重く受け止めております。児童生徒に対し、社会において守るべきことを教える立場にある教職員が、このような行為におよび、本当にあってはならないことだと、残念に思っています。再発防止を徹底します。

○記者

教員の方々への具体的な規律を正す対策は、どのような対策をお考えですか。

○教育長

アルコールが脳に与える影響についての周知、飲酒運転を防止するための具体的な対策を考え、定着させていきたいと思っています。